



2022年12月6日
ケイライン・ウインド・サービス株式会社

マルコポーロ・マリン社との覚書締結について

この度、川崎汽船株式会社と川崎近海汽船株式会社の合弁会社であるケイライン・ウインド・サービス株式会社（社長 久下 豊）（以下、ケイライン・ウインド・サービス）は、シンガポールのオフショア支援船事業会社であるマルコポーロ・マリン社と、洋上風力向けオフショア支援船の共同事業開発に向けて検討を開始することとし、覚書を締結致しました。

2050年カーボンニュートラル実現のため、再生可能エネルギーの主力として洋上風力発電による電力供給拡大が期待され、日本を含めたアジア・太平洋各国においても開発計画が進んでおり、欧州で確立された洋上風力に関わる技術を風土や歴史的産業が異なる洋上風力新興地域に浸透させていくことが出来るかが課題となっております。とりわけアジア・太平洋水域においては地震・台風・雷といった特徴のある気象・海象条件下においても安全に洋上風力発電所を建設・維持していくことが大きな課題となっております。

ケイライン・ウインド・サービスにおいては、川崎汽船グループがこれまでグローバルに展開している貨物輸送事業で培った世界トップクラスの安全運航・高品質輸送のノウハウ並びにオフショア支援船事業及びその運航ノウハウをもって洋上風力発電発展に貢献することを目指し、同じくアジア水域において豊富なオフショア支援船事業実績を持つマルコポーロ・マリン社と共にお互いの得意領域を持ち寄って、最適な洋上風力向けオフショア支援船の共同事業開発に向けて検討を行って参ります。

ケイライン・ウインド・サービス株式会社 代表取締役社長

久下 豊 コメント

日本における洋上風力発電の発展を支えていくために、KWSは洋上風力発電に特化した洋上作業技術の高度化を図っているところです。幸いにして、川崎汽船・川崎近海汽船グループには海外および国内においてオフショア作業の経験があります。それを生かしつつ、より作業技術の高度化を図るためには、国内外でしっかりした実績と経験を持つ相手とパートナーシップを組み、そのノウハウを吸収していくことが必要と考えています。そのうえで、日本の事情に合った形でそのノウハウを構築しつつ、現場での作業を行う日本人船員の技術力を高めていくことを目指しています。

今回、極東アジア水域において豊富な実績と経験をもつマルコポーロ・マリンとの協業はこの考えに沿ったものです。海外の会社との協業ということにはなりますが、同社が極東アジア水域で培ったノウハウは欧州モデルよりもより日本の実情に取り入れやすいものであると感じています。それゆえ、KWSの目指す「日本人の手による日本の洋上風力発電の発展」に大いに資するものであると考えています。



川崎汽船グループは本年 5 月に発表した中期経営計画にて次世代エネルギー事業へのグループ内での横断的取組み強化を掲げており、洋上風力発電支援船事業を通じて、社会の低炭素・脱炭素化に貢献して参ります。

※ マルコポーロ・マリン社について

シンガポール証券取引所に上場するオフショア支援船事業会社。曳船・バージ・オフショア支援船・洋上風力発電所向け作業船等 40 隻程度保有、運航している。また、インドネシア・バタムにおいて造船・修繕事業も営む。2022 年 5 月に台湾の洋上風力発電支援船会社 (PKR Offshore 社) を買収して、台湾洋上風力発電支援事業にも本格参入している。

[Marco Polo \(marcopolomarine.com.sg\)](https://marcopolomarine.com.sg)